

令和6年度 第4回 吹田市空家等対策協議会
議事要旨

日時：令和7年2月6日（木）

14時00分から16時00分まで

場所：高層棟4階 特別会議室

【委員】

	氏名	所属
会長	後藤 圭二	吹田市（市長）
副会長	辰谷 義明	吹田市（副市長）
委員	岩脇 ちゑの	吹田市民生・児童委員協議会
委員	櫻田 司	大阪弁護士会
委員	富永 明	公益社団法人 全日本不動産協会 大阪府本部北大阪支部
委員	橋本 徹也	大阪土地家屋調査士会
委員	久 隆浩	近畿大学 総合社会学部 教授（環境・まちづくり系専攻）
委員	藤原 学	公益社団法人 大阪府不動産鑑定士協会
委員	松下 豊光	大阪府宅地建物取引業協会 北大阪支部
委員	森 修平	社会福祉法人 吹田市社会福祉協議会
委員	山地 康夫	公益社団法人 大阪府建築士会

欠席者…久委員、富永委員、松下委員 計3名

【事務局】

都市計画部 住宅政策室

清水部長、大塚次長、古谷室長、笹川参事、前主幹、北村主査、洞主査、高村主査、宮下係員

【議題】

- 1 開会
- 2 報告
 - (1) 特定空家等の状況【資料1】
- 3 協議
 - (1) 吹田市空家等対策計画（案）【資料2、資料3、資料4】
- 4 その他
- 5 閉会

【議事次第】

1 開会

- ・ 後藤市長から開会の辞
- ・ 「吹田市空家等対策協議会会則」に沿って、次第2の「(1) 特定空家等の状況【資料1】」について非公開
- ・ 報道、一般人ともに傍聴人0人

2 報告

- (1) 特定空家等の状況【資料1】
〈非公開〉

3 協議

- (1) 吹田市空家等対策計画（案）【資料2、資料3、資料4】
- ・ 事務局から資料2、資料3、資料4の説明
 - ・ 以下、質疑応答

後藤市長	・ 資料2の18ページの空き家数の推移について、平成30年度調査と令和6年度調査で調査対象が異なっている旨の記載はあるが、大きく増加していることもあり、定義が相違しているものを比較することは誤解を生む可能性があるのではないか。
事務局（前）	・ 令和6年度調査では、一部空き住戸のある長屋を新たに調査対象とした等の理由により、空き家数が増加している。 ・ 調査対象の違いを考慮した空き家数の比較はほぼ横ばいとなるが、空家条例の制定等により、空家等対策の対象となる空き家が増加していることから、より包括的な対策を推進していくことを示している意図もある。
後藤市長	・ パブリックコメントを実施済のため大幅な修正はできないが、もう少しグラフの表現を工夫してはどうか。
櫻田委員	・ 空き家の定義の変化を示すグラフであればこれでよいが、空き家数と空き家率の推移を示すグラフとするのであれば、説明が不足しているように感じる。
藤原委員	・ 説明の記載についても、調査対象が異なることが読み取りづらい。
事務局（前）	・ 誤解が生じないように、グラフの表現については再検討する。
後藤市長	・ 令和6年度調査において定義の変更に伴い増加したのは、共同住宅ではなく、主に長屋であると考えていいか。
事務局（前）	・ そのとおりである。
辰谷副市長	・ 資料2の39ページの空家等対策の実績について、グラフを追記する等、もっとアピールしてもよいのではないか。
事務局（高村）	・ グラフを作成し、補足する。

4 その他

- ・今年度で任期が終了する委員の紹介。令和7年度の協議会の日程等については、追って事務局より連絡する。

5 閉会

- ・市長から、閉会の辞